

(全6枚中の1枚目)

③ 中学校・高等学校 美術

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

①～③及び⑥はすべての受験者が解答すること

1 次の文は、印象派について述べたものである。下の(1)～(5)に答えなさい。

(1) ①, ②に適する画家名又は語句を書きなさい。

(2) 次の①, ②の印象派の画家を、下のア～ケからそれぞれ1つ選び、その記号を書きなさい。

①

②

ア	ヘンリー・ムーア	イ	アルフレッド・シスレー	ウ	ベルト・モリゾ
エ	エドガー・ドガ	オ	ジョン・エヴァレット・ミレイ	カ	オーギュスト・ルノワール
キ	メアリ・カサット	ク	ギュスターヴ・カイユボット	ケ	ジョルジュ・ピエール・スーラ

(3) 印象派の画家が使った下線部Aはどのような手法か、説明しなさい。

(4) 次の文は、モネの「ジヴェルニー付近の夕陽を浴びる積み藁」について書かれたものである。()に適する画家名を書きなさい。

(5) 下線部Bの画家でもある

絵画様式を何というか、カタカナで書きなさい。

20世紀の

③ 中学校・高等学校 美術

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

2 次の文は、焼物について述べたものである。下の(1)～(6)に答えなさい。

(1) ①, ②にあてはまる窯を、次のア～キからそれぞれ1つ選び、その記号を書きなさい。

ア 萩焼 イ 益子焼 ウ 信楽焼 エ 備前焼 オ 九谷焼 カ 渥美焼 キ 美濃焼

(2) 下線部Aの特徴として正しいものを、次のア～エから1つ選び、その記号を書きなさい。

ア アルカリや鉄を多く含む粘土が材料で、光を通さない。 イ 吸水性がある。
ウ 陶石に粘土や石灰などを混ぜたものが材料で、光を通さない。 エ 叩くと金属性の冴えた音がする。

(3) 次の文は、伊万里焼について書かれたものである。()に適する国名を書きなさい。

(4) 下線部Bに関連して、次の作品「色絵藤花文茶壺」の作者名を、次のア～オから1つ選び、その記号を書きなさい。


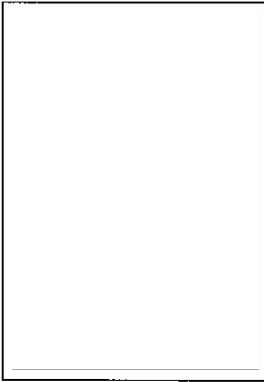
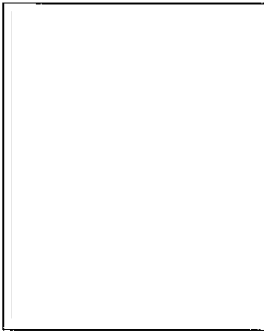
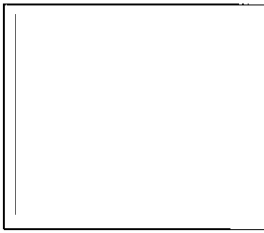
ア 初代酒井田柿右衛門 イ 北大路魯山人 ウ 古田織部 エ 尾形乾山 オ 野々村仁清

③ 中学校・高等学校 美術

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

(5) ③に適する、柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司らが広げた運動を何というか、書きなさい。

(6) 千利休は、室町將軍家の作り上げた唐物を最高とする美意識に対して、茶の湯に新しい美意識を持ち込んだとされる。利休が持ち込んだ新しい美意識とはどのようなものだったのか、以下の資料1～資料4を参考に、自分の考えを述べなさい。

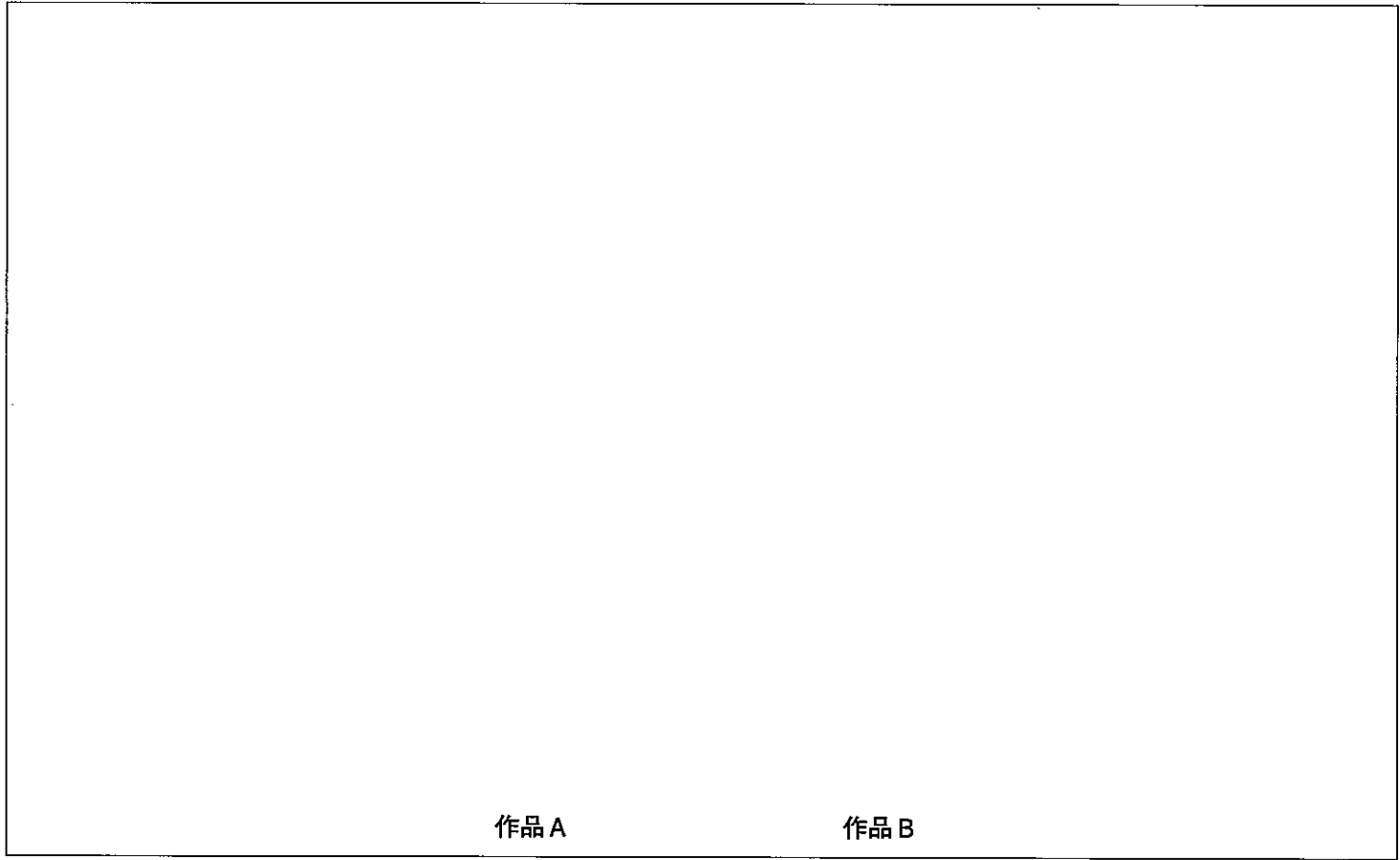
資料1 茶室「待庵」	資料2 竹花入 千利休作「竹一重切花生」	資料3 黒樂茶碗 初代長次郎作「銘 万代屋黒」	資料4 魚籠
			

(全6枚中の4枚目)

③ 中学校・高等学校 美術

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

3 次の文は、画家の自画像について述べたものである。下の(1)～(3)に答えなさい。



(1) ①～③に適する作者名を書きなさい。

(2) 次のa～fの自画像の作者名を、下のア～ソからそれぞれ1つ選び、その記号を書きなさい。

a b c d e f

ア 東郷青児	イ 黒田清輝	ウ 松本竣介	エ 村山槐多	オ 藤田嗣治
カ 古賀春江	キ 萬鐵五郎	ク 鴨居玲	ケ 青木繁	コ 高橋由一
サ 山本鼎	シ 松田正平	ス 岸田劉生	セ 安井曾太郎	ソ 佐伯祐三

(3) 自画像を制作する題材の指導における留意点を述べなさい。

(全6枚中の5枚目)

③ 中学校・高等学校 美術

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

(中学校受験者のみ解答すること)

4 次の(1)、(2)に答えなさい。

- (1) 次の文は、新中学校学習指導要領(平成29年告示)解説美術編の「内容の取扱い」の「第1学年の表現及び鑑賞の指導」の一部である。これに対する配慮として、第1学年の指導計画をどのように作成することが大切か、書きなさい。

第1学年においては、基礎となる資質・能力の定着を図ることを重視し、表現及び鑑賞に関する資質・能力が幅広く身に付くようにする。

- (2) 次の文は、新中学校学習指導要領(平成29年告示)「美術」の「各学年の目標及び内容」の「第2学年及び第3学年」の「内容の取扱い」の一部である。①～④にあてはまる語句を書きなさい。

(2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、[共通事項]に示す事項を視点に、(①)で構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などに対する自分の価値意識をもって(②)し合うなどして対象の見方や感じ方を(③)などの言語活動の充実を図ること。

(3) 「B鑑賞」のイの(i)の指導に当たっては、(④)の美術の概括的な変遷などを捉えることを通して、各時代における作品の特質、人々の感じ方や考え方、願いなどを感じ取ることができるよう配慮すること。

(全6枚中の6枚目)

③ 中学校・高等学校 美術

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

(高等学校受験者のみ解答すること)

5 次の文は、新高等学校学習指導要領(平成30年告示)「芸術」の「美術I」の「目標」である。下の(1)、(2)に答えなさい。

美術の幅広い創造活動を通して、(①)な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える(①)な視点について理解を(②)るとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) (①)なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を(②)たりすることができるようにする。
- (3) (③)に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、(④)を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(1) ①～④にあてはまる語句を書きなさい。

(2) 下線部はどのようなことを指すのか、具体例を挙げながら、説明しなさい。

(すべての受験者が解答すること)

6 次の俳句から受けた印象を基に主題を生み出し、片手を表現しなさい。また、どのような場面や心情を想像し、どのような表現にしたのか、表現意図を解答欄に書きなさい。

(注意)・鉛筆を用いて描くこと。

・片手のみ描くこととし、それ以外のものは描かないこと。